

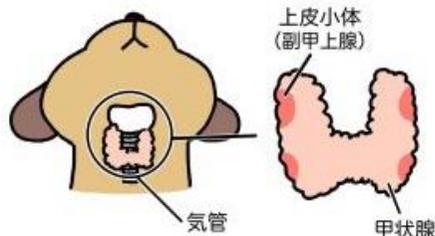
Information7

今月のインフォメーションは、【甲状腺機能低下症】についてです。

甲状腺は、甲状軟骨（ヒトでは、のどぼとけといわれています）のすぐ下にあり、
甲状腺ホルモンを分泌する内分泌器官です。

甲状腺ホルモンは体の代謝を活発にするホルモンです。

甲状腺機能低下症は、高齢の犬でよく見られます。



症状

- 元気がなくなり動きが鈍くなる
- 顔つきがぼんやりしてる
- 脱毛
- 暖かい季節でも寒がる
- 肥満（基礎代謝が低下するので、食べる量少ないのに太る）
- 皮膚の色素沈着（皮膚の色が黒く変化する）



原因

主に免疫介在性または遺伝性による甲状腺の機能不全

（免疫介在性：機能の異常により自身の免疫システムが自らの甲状腺を破壊してしまうこと）

その他の原因としては、腫瘍や副腎皮質機能亢進症などの病気の影響で引き起こされることがあります。

診断方法

一般的な血液検査、甲状腺関連の検査で T4 を調べます。
また、甲状腺疾患ではない場合も T4 が低値のことがあり
診断から除外するため FT4 や TSH を調べます。



治療

不足してるホルモンを薬によって補充します。
治療開始後 1~2 ヶ月ほどで症状の改善がみられます。

！ポイント！
生涯飲み続けるお薬です。



甲状腺機能低下症は、

『年寄りくさくなってきた…』と思う症状がキーワードです。

まずは血液検査を！

また、年に2回（春と冬）など定期的な血液検査をすることで
早期発見にもつながります。

